

未来型図書館の「いま」をお伝えします！

みんなでつくる未来型図書館 ニュースレター vol.15

専門家等で構成されるアドバイザリーボードやリビングラボにおける対話を通じて、**今後の施設整備に向けた大切な方針となる「基本計画」が完成！**今年度からは、事業者選定手続きや公会堂などの既存施設の解体に着手します。引き続き**「共創」のプロセス**を大切に取り組んでいきます。

基本計画について

パブリックコメントなども経て完成した「基本計画」の主なポイントについてご紹介します。
詳しくは、市ホームページをご覧ください。

機能について

未来型図書館には、図書館をはじめ博物館や市民交流スペース、カフェなどの多面的な機能を導入します。
施設規模（延床面積）は約9,000㎡を想定しています。

図書館

- 蔵書数は約35万冊
- 想像力を沸き立たせる「テーマ配架」導入
- 公開書庫の導入 など



©石川県立図書館

博物館

- 体験型企画展示
- 活動を支える市民ギャラリー
- 「魅せる収蔵庫」導入 など



©一支国博物館

市民交流・活動支援

- カフェなど気軽に集いくつろげる空間
- ティーンズ専用の「ティーンズスタジオ」
- 対話と活動の拠点「リビングラボ」など

建築計画について

多面的な機能が融合し、誰もが気軽に利用できるオープンで賑わいのある建築空間を目指します。（右のイラストは空間イメージ図）

概算事業費について

整備費の費用は約8.6億円、管理運営費は約4.3億円/年と想定しています。
（物価高騰等も予想されることから引き続き市場の動向を注視し事業者選定手続きにおいても検討）



全国の事例をチェック

未来型図書館の整備に向けて、推進チームのメンバーで「神奈川県立図書館」に視察に行きました。上層階に上がるにつれて利用者の学びが深まるような空間づくりと資料配置が特徴的であるほか、未来型図書館においても導入を検討している「公開書庫」を見学しました。
「書庫に入りたい」という声もあり実現したそうです。当日は、学生が調べ学習で利用している様子も見られました。



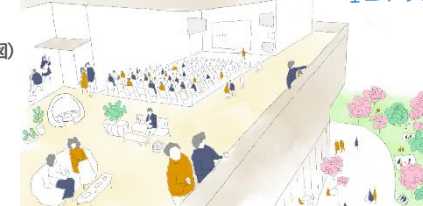
公開書庫



市民交流スペース



屋上テラス

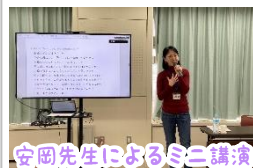


裏面もチェック！

リビングラボ

2月2日(日)に第5回(令和6年度最終回)リビングラボを開催しました。第5回のテーマは「**リビングラボの小松モデル**」を考えよう!基本計画のアドバイザーも務めていただき、リビングラボの専門家であるデンマークロスキレ大学准教授の安岡美佳先生にもご参加いただきました。当日は、安岡先生によるミニ講演や、宮橋市長とアドバイザー4名(青山学院大学 野末教授・公立小松大学 杓谷教授・安岡准教授・九九谷代表 吉田氏)によるトークセッション、「みんなで描こう!リビングラボのロードマップ!」と題してワークショップを行いました。

令和6年度のリビングラボには、延約450名のみなさんにご参加いただき、世代や職種を超えてみんなで楽しく未来型図書館について対話を重ねました。令和7年度も引き続きリビングラボなどを通じて、市民のみなさんと一緒に未来型図書館づくりに取り組んでいきます。みなさんのご参加を心よりお待ちしております!



安岡先生によるミニ講演



トークセッション



集合写真

図書館エディター

図書館エディター「こまつオルワ's」の皆さんによるアドバイザーのお二人(杓谷教授・吉田氏)へのインタビューや未来型図書館において導入する「テーマ配架」の実践を現図書館にて行うための準備に取り組みました。養成講座で学んだインタビュー術や本棚編集術のスキルを活かして挑戦!

インタビュー内容については未来型図書館noteにて、テーマ配架は4月6日(日)以降、1カ月程度現図書館(本館)にてご覧いただけます。



インタビューの様子



テーマ配架の準備

子ども司書

3月のクラブ活動では、令和7年度の年間活動計画を子ども司書のメンバーによる話し合いのもと考えました。豆本づくりや雑談会(宿題会)など、子ども司書の発案による活動案がたくさん出されました。また、2月からは子ども司書のメンバーがnoteへのコラム投稿にも挑戦しています!



今年度もみんなで楽しく活動します!

みんなであつなぐ未来型図書館 リレーエッセイ

第15回目は基本計画アドバイザー&リビングラボコーディネーターの青山学院大学教育人間科学部教授・学部長の野末先生です!

公共施設の建て替え時期を迎えていることもあり、図書館(複合施設)の新改築を行なっている自治体は全国にたくさんありますが、小松市は計画にあたって最も時間と手間をかけていると思います。しかも、議員さんや市役所の職員さんを含めて、立場も年齢もさまざまな皆さんが同じテーブルについてフラットに話し合いを進めている点も素晴らしいところです。(2023年10月発行のニューズレターにも書かせていただいたことですが、何度でも強調させていただきます!)

図書館は建てて終わりではありません。建ててから、あるいは建てる前から、市民みんなで創って、使って、育てていくものです。小松市の取組みは、そういう意味での「図書館」と呼ぶに相応しいものです。いわばリビングラボとしての図書館であり、まさに「未来」を先取りした図書館だと思います。ここから皆さんの「図書館」がどう進化・成長していくか、楽しみにしています。



野末 俊比古教授

お知らせ

未来型図書館に関する各種情報は市ホームページなどで随時発信中です!

note

Instagram

市HP

